

関西大学国文学会

伝坊門局筆後撰和歌集小考……………立石大樹(一)

—四季部を中心に—

鎌倉期における『源氏物語』梗概化の方法……………中葉芳子(三)

—古筆切を手がかりに—

陽明文庫蔵 伝後醍醐天皇筆本『和漢朗詠集』……………恵阪友紀子(三五)

—増補詩歌からの位置づけ—

錢稻孫訳一九五九年版『漢訳万葉集選』の成立経緯……………鄒双双(三五)

—佐佐木信綱宛錢稻孫未発表書簡十二通 鈴木虎雄書簡一通—

火野葦平『画壁』考……………増田周子(四〇)

—『聊齋志異』との比較を中心として—

津村節子『海鳴』論……………岩田陽子(六)

—改訂の意義—

近世初期俳諧における「やさし」の用法……………田中巳榮子(七)

—「江戸八百韻」に見える「婀娜」<sup>ワカ</sup>「艶し」について—

松本清張『砂の器』……………李彦樺(一)

—台湾の訳本をめぐる諸問題—

戦中期における海外邦字新聞の字音仮名遣い……………井口佳重(一七)

国文学

平成二十三年二月

第九十五号